

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400118		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームすもも		
所在地	伊勢崎市太田町856-1		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームない清潔感があり臭いが無い。食事が美味しいとお褒めの言葉を頂くことがあります。入居者様はゆったりと生活しています。困りごと職員に相談しやすい環境がある。地域の方々の協力もあり、入りやすい環境が整っています。ボランティアの方々によるADL体操も年齢に近いこともあり親しみやすい環境になっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が継続的に実践されている。特に地域の人々が協力的であり、花や野菜の植付、水遣り、収穫まで一連の作業を行っていただいていることが恒例となって定着している。地域の住民が事業所と関わっていることで地域高齢者の情報や相談にも気軽に対応することもでき、事業所が地域の一員となって交流が図られている。今後も専門性を地域に還元できるように期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年3月1日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に行動している。迷った時などは理念を理解して行動している。	申し送りや会議等で唱和し、各職員が理念を確認でき、利用者への傾聴や敬うことを基本に迷ったときは理念に戻れるようにしている。事業所全体で笑顔が絶えないように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマス会には地域の方の参加または収穫祭には招いて頂き和やかに楽しむしている。	地域住民が育ててくれた野菜や花の収穫祭に参加して交流している。地域の祭の中継地点になっており事業所を開放している。地区の作品展への出展が恒例になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議・ボランティアの方々に参加して頂くことにより、認知症の方の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の好評について、話し合いを設けています。ホームの向上の参考にしています。	定期的に開催され、市の担当者、長寿会の役員、区長、民生委員、地域住民、家族が出席し、事業所から現状・活動報告が行われ、家族や地域の方の発言も活発に、意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本社担当者が日頃出向き、報告連絡などに密にとり協力体制をとっている。	管理者と法人の担当課長が事業所の状況を把握し、課長が市に出向き連携を図っている。介護保険の更新代行を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所の入れ替わり、不穏等で落ち着きませんので、落ち着きましたら開放の方向で取り組みます。	玄関は離苑対象者がいるということで、施錠されている。食堂では車いすからテーブル椅子に座り替えている利用者もいる。	利用対象者の状況に応じて、玄関の施錠が常態化しないような工夫をし利用者の自由を確保してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待について議論しています。また見過ごしていないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が安心して生活して頂けるように、制度の理解と活用の為、個人的にも学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約また改定の際は、利用者や家族が理解、納得されるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催している。利用者、ご家族の他地域の方達にも参加して頂き現状報告や意見交換等を行っている。	本人からは誕生日に叶えたい事を聞き、散歩や運動がしたい、のんびりしたいと意見が出て家族に報告し、家族からは穏やかに過ごしてほしい等の意見が出ている。生活に必要な物を家族の代わりに用意することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞いている。普段からホームのより良い運営の為に意見を出し合ったり試行錯誤している。	管理者は職員が疑問に思っていること等の話を聞いている。出された意見等は職員のやりやすい方向でカンファレンスで共有することもある。全体的にレベルが上がることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や、職員が向上心を思っ働けるように人事考課を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員のスキルアップの為、定期的に法人内外の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は設けられていない。しかし同グループ内の研修会にて研究発表会を設けたりして勉強する機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が、どういった事に困っているのか、不安なのかを傾聴したりすることにより、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係もとても重要で大切にしている。ご家族の要望に出来るだけ応じ利用者様のケアにも生かしていける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その場面に合った、必要な支援に努めている。他のサービスも含め、臨機応変に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係だけでない、家庭で生活しているかのような、グループホームとしての役割を果たせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の絆を大切にしながらホームで支えて行けるように定期的に家族会を開催したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、場所との関係が途切れない様にいつでもホームに来苑して頂けるような場所となる様に努めている。	卓球・散歩・お化粧や毎日の洋服を自分で選ぶことを続けている人や花の水遣りを日課にしている人もいる。毎年、干し柿作りを分担して行うことも恒例になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格から利用者同士の相性などを理解して、利用者が落ち着いて生活していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々ボランティアでギター演奏に来て頂き、皆さんと歌を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけをして本人の希望を聞いたり、意向を察したり、昔の話から思いを聞きとる様にしている。困難な場合は、ご家族から状況をj得て参考にしている。	ケアマネジャーが週1回訪問し、利用者に不満は無いか?等問いかけたりケア記録を通して意向を推察している。家族からは、面会時や電話で希望を聞いたり、ケア記録から把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方一人一人の今までの生活や経験を沢山聞き、サービス提供を行っている。その方の多くを知ることで、良いサービスが出来ると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見れるようにしていたり、細かな事でもケア記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が利用者の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見れるようにしていたり、細かな事でもケア記録に残している。	毎月の職員会議やカンファレンス時にモニタリングを実施している。3ヵ月毎にアセスメント及びサービス担当者と共に介護計画の見直しが行われている。状態変化時は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	声かけをして本人の希望を聞いたり、意向を察したり、昔の話から思いを聞きとる様にしている。困難な場合は、ご家族から状況をj得て参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時は事務所の電話を利用し、電話を掛けたり、取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には利用者と共に参加し、ホーム内では、ボランティア体操等を定期的に行い、地域の方々との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診があり。受診、通院はご家族対応だが、都合でどうしても行けない場合は、ホームで対応している。	入居時にかかりつけ医の継続か協力医に変更できることを説明している。必要時には訪問歯科の支援が受けられる。急変時以外の定期受診や眼科受診等は基本的には家族支援である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護が来苑し、いつでも連絡が取れるようになっている。毎日バイタルチェックを行い、体調不良や普段と様子が違う方が居たら、記録に残し職員と協力し合い連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、その方の状態や情報を入院先へ細かく伝えている。又、時々見舞いに行き、変化や状態をみるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携している医師より終末期のお話があり次第、早い段階でご家族との話し合いを設け、ご家族の意見に沿って支援させていただいています。	終末期に関する指針があり看取りの事例がある。職員は共有している。終末期の希望があった場合は主治医や家族、管理者が段階的に話し合うことを申し合わせている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講して緊急時の手当の仕方などを学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日に避難訓練・防災訓練を行っており、1年に1度消防本部や御近所の方々の協力を得て、夜間想定火災訓練も行なっています。	28年3月消防署立会い・夜間想定で総合訓練、10月に運営推進会議時に夜間想定自主訓練を実施した。備蓄として食料・水を2～3日分とガスレンジ等の用意がある。	非常事態に備え、日頃から利用者と職員が避難技術を身に付けられるように自主訓練を実施してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない様、居室に訪室する時はノックを行う。利用者様の人格を尊重し言葉使いにも気を付けている。	各利用者の生活を大事にしていくことを申し合わせて、居室の持ち物は本人の宝物と捉えている。朝食は各人のリズムで2時間程度取っておく事もでき、上から目線的な話し方をしないことを共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に添える様な支援をしている。食べたい物、欲しい物は、出来る範囲で応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望にそってその日を過ごせるようしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人身だしなみを考え、女性、男性として輝けるように心がけている。又、訪問美容室を利用することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞いたりしながら、美味しく召し上がって頂けるように努めている。又、見ためも大事にしている。食器拭き等、無理のない様、利用者様にしている。	職員が作り利用者と一緒に食べている。共用空間に献立の掲示もある。テーブル拭きやお茶入れをできる人に手伝ってもらい、菜園の野菜が食卓にあがる。誕生会や季節の行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった量を摂取する事は大切だが、一人一人に応じた食事形態にして必要な時は栄養補助食品も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に、毎食後、口腔ケアを行って頂き、難しいところは職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮し、利用者様、一人一人にあった声かけを心掛けている。	利用者のそれぞれに適した排泄用品を使用し、本人の訴えや定期等の誘導をしている。ポータブルトイレの利用や夜間のみパット使用等個別で快適な排泄支援になるように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様、体操、水分補給等、無理のない程度で行なっている。又、水分量も記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った曜日や時間に入浴して頂けるよう、努めている。	入浴前にバイタルを図り、健康状態の良さそうな人には声をかけて、週に2～3回入浴支援をしている。男性の利用者は外で見守っている。浴室には観葉植物が置いてあり、雰囲気作りもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて安心して休息できるよう、職員からも声かけをしている。又、冷暖房を適切に使用し快適に過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報の周知徹底、内服までの声を出しての確認し、職員同士でも確認。最後まで内服したか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸や、物作り、花の水やり等して頂いたり、ボランティアの方を招いて体操や歌を唄う活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに出て外気浴を行ったり、季節の花を觀賞しに出掛けたり、会社全体で旅行に観光に出掛けることもある。	日常的には散歩や花の水遣り、洗たく物干し、ベランダに出て日光浴で風や陽にあたることが多い。お弁当を買ってドライブやバス旅行、家族との外出で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の管理能力とご家族様のご希望を重視し、現在はご自分で所持されている方はおらず、職員管理となっていますが、必要時には預かっているお金で買い物は出来ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の都合によりなかなか出来ない方もいらっしゃいますが、家族との繋がりは必要とされることなので、出来る範囲で支援して行きたいと思っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、温度には随時気を配り、不快を与えないように心掛けています。掃除を徹底し清潔で住みよい環境を提供しています。季節のお花を飾ったり、季節の行事に合わせ掲示板に装飾したりと、季節感の配慮にも心掛けています。	ソファやテーブルと椅子、テレビや季節の花、観葉植物が置かれている。食事のメニューが掲示され、手作りの作品が飾られている。不快な臭いがなく清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で過ごせる場所として、リビングにソファが置いてあります。独りになりたい時は自席にて過ごしたりと、一人一人が思い思いに過ごせる自由な環境・空間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で暮らしていた時からの使い慣れた馴染みの物を置いたり、ご本人様の好みの物を置いたりし、安心して尚且つ居心地良く暮らせるように工夫をしています。	各人が入居前に使っていた寝具を持ち込んでいる。ソファや文庫本、家族の写真、散歩で集めた落ち葉等が飾られている。日用品が使いやすいように置かれており、不快な臭いも無く個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせ、出来る事はして頂き、自立した生活が送れるよう支援しています。その際、危険を伴わないよう安全に行えるように助言・見守りしています。		